



## 西瓜(天邊一朵雲 / The Wayward Cloud)

2007(平成19)年2月4日鑑賞(シネ・ヌーヴォ)

監督・脚本=蔡明亮 / 出演=陳湘琪 / 李康生 / 陸弈靜 / 楊貴媚 / 夜桜すもも (プレノンアッシュ配給 / 2005年台湾映画 / 112分)

……西瓜を小道具(?)とし、AV男優を主人公とした過激かつ大胆なセックスシーンと、突如場面が明るくなって歌い始めるミュージカルシーンにあなたは度肝を抜かれるはず……。ほとんどセリフなしの、こんな独創的な映画をつくれるのは、韓国の天才キム・ギドクか、台湾の天才蔡明<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>亮しかないから、2人がベネチア・カンヌ・ベルリンの三大映画祭の常連となるのは当然……。アダルトビデオ顔負け(?)のラストシーンは衝撃的で、世界的に見てもベスト10に入るのでは……。機会を見つけ、何としてもこんな映画を観なければ、一生の損失だよ……。

### 韓国の天才はキム・ギドク、すると台湾の天才は……?

私が今回はじめて知った蔡明<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>亮監督は、ベネチア国際映画祭でのグランプリ(金獅子賞)をはじめ、カンヌやベルリン国際映画祭でも何度も受賞している台湾随一の注目監督。『西瓜』『楽日』(03年)というその蔡明<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>亮監督作品2本と、蔡明<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>亮監督がプロデュースした『迷子』(03年)の3本を続けて観る中で、当然のように対比したのが、韓国映画界の天才キム・ギドク監督。

1960年生まれのキム・ギドクに対して、蔡明<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>亮は1957年マレーシア生まれだからほぼ同世代。キム・ギドクは山間の村にある貧しい家庭で育ち、映画界に入ったのは30歳を超えた1992年に脚本の執筆に取りかかってから。そして映画監督デビューは1996年の『鱈』だが、暴力的な描写の話題が先行し、長らく不遇時代を送った後、『魚と寝る女』(99年)、『受取人不明』(01年)がベネチア国際映画祭に、『悪い男』

(02年) がベルリン国際映画祭に選出され、世界のキム・ギドクと呼ばれるようになった。これに対し蔡明亮<sup>ツァイ・ミンリャン</sup>は、20歳の1977年に台湾に渡って、文化大学演劇科で映画・演劇を学び、在学中から抜きんでた才能で注目を集めたい。そして、1992年の『青春神話』で映画監督デビューし、2作目の『愛情萬歳』(94年) でベネチア国際映画祭でグランプリ(金獅子賞)を受賞したうえ、以降カンヌ国際映画祭、ベルリン国際映画祭での受賞を重ねている。

## 韓国と台湾における最新の政治情勢は……？

2月4日(日)の『サンデープロジェクト』の特集は、2007年12月に実施される韓国の大統領選挙をめぐって、支持率が大きく低下した盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>大統領の後継候補がどうなるかに注目した。他方、野党ハンナラ党からは李明博<sup>イ・ミョンバク</sup>と朴槿恵<sup>パク・クンヘ</sup>さらに孫鶴圭<sup>ソン・ハクギュ</sup>という3人の有力候補が競い合い、ひょっとして2人が出馬すれば、与党ウリ党候補の「棚からぼたもち方式」の勝利の可能性もとりざたされているとのことだった。そしていずれにせよ、この大統領選挙の行方が東アジア全体の平和と安定に大きな影響を及ぼすことは明らか……。

そんな韓国に激震が走ったことを2月7日付朝刊各紙が報じた。すなわち、与党ウリ党の議員23人が集団離党を表明したため、「同党は2004年の総選挙で大勝して以来初めて、国会第1党の座から転落した」というニュースだ。2月14日の党大会を控える中、「開かれたウリ党」は事実上、空中分解するわけだが、さて今後の韓国の政治情勢の展開は……？

他方、台湾では民進党の陳水扁政権が、呉夫人の公費私的流用事件で「結党20年、最大の危機」。しかし他方、それまで人気抜群だった野党国民党の馬英九主席も、国民党が奪取を狙った台北市と高雄市の市長選挙で敗北したため、その指導力に陰りが出始めている。また、軍事面においては、空軍力で中国が台湾を圧倒した旨が報じられているから、こちらも2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博終了頃の中台関係がどうなっているかがきわめて微妙……。というより、多分中国の1人勝ちの様相が……？

## 製作本数と映画人口——韓国 vs. 台湾

このように東アジアの中で政治的・軍事的に微妙な立場にあるのが韓国と台湾。ち

なみに、面積や人口においては、台湾が約3万6189.5平方キロメートル、約2288万人に対し、韓国は約9万9646平方キロメートル、約4850万人だから、面積では約3倍、人口では約2倍。それにも増して格段に違うのが映画の製作本数と映画人口。すなわち、映画の製作本数は韓国の年間70~80本に対し台湾は約20本（ちなみに、目下絶好調の2006年の日本では400本超）。また韓国の大ヒット作は観客動員1000万人というレベルだが、台湾で最大のヒットをしたこの『西瓜』ですら、観客動員は13万人……。

## 大胆なセックスシーン満載の純愛映画！

今や日本では韓流ブームは完全に消え去ってしまった……？ その原因の1つは、『冬ソナ』をはじめとする韓流純愛映画がワンパターンとなり、飽きられてきたため……？ それに比べると、台湾で2005年興行成績第1位となり、2005年ベルリン国際映画祭で銀熊賞（芸術貢献賞）を受賞したこの『西瓜』は、同じ「純愛」映画でも、大胆で過激なセックスシーン満載の、いかにもツァイ・ミンリヤン蔡明亮監督流純愛映画で、キム・ギドク作品以外には世界に類を見ないもの……。

## あの故宮博物院と龍虎塔がミュージカルの舞台に

この映画は、場面が突如ミュージカルに切り替わるのが1つの大きな特徴だが、そのミュージカルシーンの舞台も、マンション屋上にある受水槽の中とか高速道路にある大きなトイレの中とか、奇抜な舞台が多い。そんな中まともなのは（？）、私が台湾旅行の際に訪れた①故宮博物院と②龍虎塔の2つだけ……？

台北にある故宮博物院は台湾で最も有名な観光地だが、中国の北京にある故宮博物院に比べると規模が全然違う小さなもので、私にはあまり魅力的に思えなかったもの（私のホームページの台北・高雄・台南・日月潭「台湾4日間」旅行記参照）。この故宮博物院の前にある蒋介石の銅像を取り囲むようにチェン・シャンチー陳湘琪とルー・イーチン陸弈静を筆頭とした女性たちが華やかに歌い踊るのが、『It's Only The Beginning / 愛的開始』のナンバー。もっとも、この蒋介石の像は故宮博物院の改装に伴い移動されたとのこと……。2005年3月14日に私が行った時は、たしかまだあったと思うのだが……？

次に台湾南部の都市、高尾にある有名な観光地が蓮池潭と龍虎塔。この蓮池潭は日本統治時代につくられた湖で、高雄市民の水源の1つだったもの。そして、ここにある七重の塔が龍虎塔と呼ばれる有名なもの。まず、つづら折りの橋があり、これをゆ

つくり歩いていくと龍虎塔への入口がある。ここでは、左の龍の口から入り、右の虎の口から出てくると良いことがあると言われている。この龍虎塔を舞台とし、スイカ模様の傘を小道具とした女性たちの踊りは、天候に恵まれていることもあって何とも華やか……。

ここでこのような評論を書けるのは、2005年3月13日～16日の台湾旅行について、詳細な旅行記と膨大な写真があるおかげ。蔡明亮<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>監督作品を鑑賞するについて、このように私の台湾旅行記が大いに役立っていることをみれば、その旅行が単なるお遊びではなく、研修のため、勉強のためだったことがわかってもらえただろうか……？

## 監督と俳優との結びつきは……？

最近のキム・ギドク監督は、『サマリア』（04年）で起用したかわいい女の子ハン・ヨルムを『弓』（05年）でも起用したが、彼は本来1人の俳優に固執せず、1作ごとに俳優を決めていく傾向が強いうえ、『春夏秋冬そして春』（03年）では自分自身を主役として登場させているほど。

これに対し蔡明亮<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>監督作品には、男優は李康生<sup>リー・カンション</sup>、女優は陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>が常連。とりわけ、今回『迷子』で監督としてデビューした李康生<sup>リー・カンション</sup>は、蔡明亮<sup>ツァイ・ミンリヤン</sup>監督すべての作品で主演をつとめているという、なくてはならない俳優。

このような監督と俳優との関係はよく見られるもの。日本では、黒澤明監督作品には三船敏郎が欠かせないし、小津安二郎監督作品には笠智衆が欠かせないもの。ちなみにハリウッドでは、マーティン・スコセッシ監督がやけにレオナルド・ディカプリオに固執してアカデミー賞を狙っているが、それはなぜ……？

## リー・カンション 李康生がAV男優に挑戦！

その李康生<sup>リー・カンション</sup>が、この映画ではとことん裸の肉体ををさらけ出すばかりか、何とAV男優として徹頭徹尾、歯を食いしばりながら頑張っている……。もっとも、この映画はあくまで最高水準の芸術作品で、市場に溢れかえっている単なるアダルトビデオではないから、局部を映し出すセックスシーンを延々と流すものではない。あくまでそこに至るまで、あるいはその前後の描き方が問題なのだが、そのすべてのシーン<sup>リー・カンション</sup>で李康生が大奮闘！

アダルトビデオ製作においては、そのメインはもちろん AV 女優で、日本では大昔では一条さゆり (?) そして一昔前では何といっても小林ひとみが最高……? また飯島愛や桜樹ルイなど例外的に AV 女優からタレントに転身して成功しているケースもある。このように一部の超有名 AV 女優は表に出て大活躍だが、逆に AV 男優は本来刺身のツマで、陰の存在……? また男とは不便な動物で、いくら若くて元気な AV 男優でも、たまに気が向かない時には役に立たないことがあるらしい……? そんな AV 男優の生態を、李康生<sup>リー・カンション</sup>がホントに熱演!

## 🎬 セリフはたった1つの主演女優は……?

『楽日』では女の魅力を封印して、足の悪い映画館のモギリ嬢 (?) を演じた陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>だったが、『西瓜』ではその若さと美しさを前面に打ち出して、西瓜と戯れる (?) 何とも不思議なオンナを熱演。その第1は、冷蔵庫の中に頭を突っ込んで、大きな西瓜に何とも悩ましげなキスをするシーン。その色っぽさに、あなたの頭はクラクラするはず……。第2は、お腹に抱えた大きな西瓜をネタに、マンションの階段で演ずる出産もどきのシーン。思わず、章子怡<sup>チャン・ツイイー</sup>が1人3役に主演した『ジャスミンの花開く (茉莉花開 / Jasmine Women)』(04年)で、雨の降る中、章子怡<sup>チャン・ツイイー</sup>が道路上で演じたホンモノの出産シーンを思い出してしまったが、『西瓜』のそれはあくまでお遊び……。

そんな陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>がこの映画で語る唯一のセリフは、シャオカンに対する「まだ腕時計を売ってるの?」だけ。しかし、衝撃のラストシーンは別格として、この映画におけるそんな彼女の存在感はピカイチ……。

## 🎬 日本の AV 女優、夜桜すももが AV 演技に参戦!

『楽日』もそうだったが、この『西瓜』にもなぜか1人の日本人が、映画撮影と知らされずに台湾に向かい、女優として参加している。それは夜桜すももという日本でも現役の AV 女優として活躍しているちょっと太め (?) の女性。AV 女優のタイプにもいろいろあるが、私はこの手の豊満な肉体を見せつける女優よりも、若くて小ぶりな女の子の方が好き……?

それはともかく、この映画の冒頭は、この夜桜すももが看護師の制服姿で大きく広げた股間に半分<sup>リー・カンション</sup>に切った西瓜を置き、それを媒介とした李康生との疑似セックスシ

ーン。そして、それが終われば今度は、中身がくり抜かれた西瓜を李康生<sup>リー・カンション</sup>が頭に被っての、本番突撃のセックスシーン……？

この夜桜すももが『西瓜』の撮影に参加したのは10日間限りで、ミュージカルシーンに参加できなかったのが残念だと語っているが、衝撃のラストシーンでは、縁の下の力持ちとして(?)大いに奮闘。AV女優としては、あえぎ声を含めた演技力が持ち味のはずだが、何とそこで夜桜すももに要求されたのは、セックス本番中もずっと気を失った状態でいる、ということ。さて、そのココロは……？

## 『迷子』でおばあさん役の陸弈静<sup>ルー・イーチン</sup>も AV 女優に……

『迷子』では孫を迷子にさせたため、必死になって公園内を歩き回る祖母役で登場した陸弈静<sup>ルー・イーチン</sup>だったが、その陸弈静<sup>ルー・イーチン</sup>が『西瓜』では妖艶な蜘蛛女のミュージカルシーンに挑戦する他、ベテラン AV 女優として李康生<sup>リー・カンション</sup>のお相手を……。セックス終了後の男の精液を顔いっぱい受け止めるそのシーンには、アダルトビデオも真っ青……？

## 衝撃のラストシーンには全世界がビックリ！

この映画の最高の見どころは、衝撃的なラストシーン。といっても、そのシーンはかなり延々と続くから、固唾を呑みながらスクリーンに集中してほしいもの……。まず、縁の下の力持ちとなるのは前述のように夜桜すもも。気を失ったままの彼女を相手に、AV 男優の李康生<sup>リー・カンション</sup>がカメラやライトの指示を受けながら、文字どおり大奮闘。

問題はその最中に、壁1枚隔てた窓の向こうから陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>がその行為を凝視するというシチュエーションになったこと。さてこうなると、李康生<sup>リー・カンション</sup>は肉体は夜桜すもも相手に励んでいるものの、頭の中は目の前に立っている陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>のことでいっぱい……？ 他方、生々しいセックスシーンをじっと凝視している陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>も、セックス攻勢を現実を受け止めているのは夜桜すももだが、陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>の頭の中ではそれを受けているのは完全に自分……？ したがって、完全に気を失っているためあえぎ声1つ出ない夜桜すももにかわって、途中からは李康生<sup>リー・カンション</sup>のセックスのリズムに合わせ、陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>の口からは生々しく激しいあえぎ声が……。そして、李康生<sup>リー・カンション</sup>がクライマックスに達した時、李康生<sup>リー・カンション</sup>は一体どんな行動を……。そして陳湘琪<sup>チェン・シャンチー</sup>は……。この衝撃のラストシーンはあなたの目でしっかりと……。

2007(平成19)年2月7日記